

プレバソン®フロアブル5

■種類名：クロラントラニプロール水和剤
■有効成分：クロラントラニプロール ----- 5.0%
■化管法指定物質：クロラントラニプロール [第1種] ----- 5.0%
 プレバソン®はFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標

■登録番号：第22464号 (エフェム・ケミカル登録)
■毒 性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2009.09.28
■性 状：淡褐色水和性粘稠懸濁液体
■有効年限：4年
■包 装：250ml×40本、500ml×20本
 1ℓ×12本、2.5ℓ×4缶

【特長】

- ジアミド系有効成分クロラントラニプロール含有の野菜・畑作用の殺虫剤。
- チョウ目害虫、ハエ目害虫に高い効果を発揮する。また、散布だけでなく、灌注処理においても優れた効果を示す。
- 速やかに害虫の摂食活動を停止させ、長い残効性を示す(灌注処理で約4週間、茎葉処理で約2週間効果が期待できる)。
- 適用作物に対する安全性が高い。

【適用内容】 (2024年11月末日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ネキリムシ類 カブラハバチ類	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り0.5 ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの処理は 1回以内、定植後の 処理は 3回以内)
	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバ類	500	苗地床1㎡当り2ℓ				
	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバ類 オオタバコガ	2000	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布 無人航空 機による 散布	
	20	1~2ℓ/10a					
はくさい	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ類	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1 冊(約30×60cm、使用土壌 約1.5~4ℓ)当り0.5 ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	
	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ カブラハバチ類 オオタバコガ	2000	100~300ℓ/10a				
かぶ	コナガ			収穫前日まで	2回 以内	散布	3回以内
非結球あぶ らな科葉菜 類(タアサイ、非結球は くさい、なば な類を除く)	コナガ ハモグリバエ類	2000	100~300ℓ/10a				
タアサイ	オオタバコガ			育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	3回以内 (灌注は1回 以内、 散布は2回 以内)
非結球 はくさい	ハスモンヨトウ	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り0.5ℓ				
	コナガ ハモグリバエ類	2000	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	2回 以内	散布	

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	カウントリポール を含む農薬の 総使用回数
なばな類	アオムシ	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4%) 当り0.5%	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回 以内、散布は 3回以内)
	アオムシ ハスモンヨトウ コナガ ハモグリバエ類	2000	100~300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	
アマランサス(莖葉)	シロオビノメイガ	20	1~2%/10a				無人航空 機による 散布
だいこん	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ類				2000	100~300%/10a	
はつかだいこん	ハモグリバエ類	4000~ 5000	100~300%/10a		2回 以内	散布	2回以内
てんさい	ヨトウムシ	2000		3回 以内	4回以内 (灌注は1回 以内、散布は 3回以内)		
カリフラワー	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4%) 当り0.5%	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)
ブロッコリー	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	2000	100~300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)
	20	1~2%/10a	無人航空 機による 散布				
茎ブロッコリー	ハスモンヨトウ	2000	100~300%/10a	育苗期後半 ~定植当日	1回	散布	4回以内 (灌注は1回 以内、散布は 3回以内)
		100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4%) 当り0.5%			灌注	
レタス	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ	2000	100~300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類	20	1~2%/10a			無人航空 機による 散布	
	ハモグリバエ類	1000~ 2000	100~300%/10a			散布	
非結球 レタス	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類 ネキリムシ類 ヒメフタテンヨコバイ	100	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4%) 当り0.5%	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類	2000	100~300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	
20	1~2%/10a	無人航空 機による 散布					
トマト	ハモグリバエ類	1000~ 2000	100~300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 散布は3回 以内)
	オオタバコガ トマトキバガ	2000					
	トマトキバガ	100	1株当り25ml	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	
	ハモグリバエ類 コナジラミ類	200	1株当り50ml				

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クワントリアクトール を含む農薬の 総使用回数
ミニトマト	トマトキバガ	100	1株当たり25ml	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回 以内、散布は 3回以内)
	ハモグリバエ類 コナジラミ類						
	ハモグリバエ類 オオタバコガ トマトキバガ	2000	100～300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	
なす	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類 ネキリムシ類	100	1株当たり25ml	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	3回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 散布は 2回以内)
	ハモグリバエ類	200	1株当たり50ml	収穫前日まで	2回 以内	散布	
		1000～ 2000	100～300%/10a				
ハスモンヨトウ オオタバコガ	2000						
とうがらし類	ハスモンヨトウ コナジラミ類	100	1株当たり25ml	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回 以内、散布は 3回以内)
ピーマン	ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000～ 2000	100～300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	3回以内 (灌注は1回 以内、散布は 2回以内)
	ハスモンヨトウ コナジラミ類	100			1株当たり25ml		
きゅうり	ハモグリバエ類	100～ 200	1株当たり50ml	収穫前日まで	3回 以内	散布	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 散布は3回 以内)
		200					
	ウリノメイガ	1000～ 2000	2000				
ズッキーニ	ハモグリバエ類	1000					
メロン すいか	オオタバコガ ハモグリバエ類						
とうがら にがり 未成熟ささげ アスパラガス つるむらさき しそ科葉菜類 (えごま(葉) を除く)	ハスモンヨトウ	2000	100～300%/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	3回以内
いちご モロヘイヤ エンサイ							
せり科葉菜類 (パセリを除く)							
パセリ	ヨトウムシ ハスモンヨトウ			収穫7日前 まで			2回以内 (灌注は1回 以内、散布は 1回以内)
らっきょう	ハモグリバエ類						3回以内
ねぎ	シロイチモジヨトウ ネギコガ ハモグリバエ類	20	1～2%/10a	収穫3日前 まで	3回 以内	無人航空 機による 散布	4回以内 (灌注は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)
	ハモグリバエ類	100	セル成型育苗トレイ 1箱またはペーパーポ ット 1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5～4%) 当たり0.5 %	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クワントラニプロール を含む農薬の 総使用回数
豆類(種実、 ただし、だい ず、あずき、 らっかせいを 除く)	ハスモンヨトウ	4000	100~300 μ g/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回 以内
だいず	ハスモンヨトウ マメシクイガ ウコンノメイガ オオタバコガ	16~32	0.8 μ g/10a			無人航空 機による 散布	
あずき	ハスモンヨトウ アズキノメイガ	4000	100~300 μ g/10a			散布	
えだまめ	ハスモンヨトウ マメシクイガ ウコンノメイガ オオタバコガ	16~32	0.8 μ g/10a	収穫3日前 まで	3回 以内	無人航空 機による 散布	3回以内
未成熟そらめ	ハモグリバエ類	1000~ 2000	100~300 μ g/10a	3回 以内		散布	
さやいんげん 実えんどう さやえんどう	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類	2000				散布	
にんじん	キアゲハ	20			1~2 μ g/10a	2回 以内	無人航空 機による 散布
やまのいも	ハスモンヨトウ ナガイモコガ	2000 20	100~300 μ g/10a 1~2 μ g/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	3回以内
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ	2000~ 4000	100~300 μ g/10a			無人航空 機による 散布	
	アリモドキゾウムシ ヒルガオハモグリガ	16	0.8~1.6 μ g/10a			無人航空 機による 散布	
さといも しょうが	ハスモンヨトウ	2000 20	100~300 μ g/10a 1~2 μ g/10a	3回 以内	3回 以内	散布	3回以内
ほうれんそう	ハスモンヨトウ シロオビノメイガ	2000	100~300 μ g/10a			無人航空 機による 散布	
えごま(葉) ふき	ハスモンヨトウ					散布	
ふき (ふきのとう)				2000	100~300 μ g/10a	2回 以内	散布
クレソン (土耕栽培)	コナガ			収穫3日前 まで	3回 以内		3回以内
ごま	オオタバコガ			収穫14日前 まで	2回 以内		2回以内

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カントリア®ロールを含む農薬の総使用回数
飼料用 とうもろこし (子実)	アワノメイガ ツマジロクサヨトウ	2000～ 4000	100～300㍉/10a	収穫前日まで	3回 以内	散布	4回以内 (は種前の 塗沫処理は 1回以内、 は種後は 3回以内)
		20～ 40	1～2㍉/10a			無人航空 機による 散布	
	アワノメイガ ツマジロクサヨトウ オオタバコガ	16	1.6㍉/10a			散布	
		2000	100～300㍉/10a			無人航空 機による 散布	
とうもろこし	アワノメイガ オオタバコガ ツマジロクサヨトウ	2000	100～300㍉/10a			散布	
		20	1～2㍉/10a			無人航空 機による 散布	
		16	1.6㍉/10a			散布	
オクラ	オオタバコガ ハスモンヨトウ	2000	100～300㍉/10a			散布	3回以内
		20	1～2㍉/10a	無人航空 機による 散布			
たばこ	ヨトウムシ	2000	100～180㍉/10a	収穫10日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
とうき	キアゲハ		100～300㍉/10a	発生初期	4回 以内		4回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用前によく振ってから使用すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - ◆ 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中、薬液の漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- みずかけな(水掛菜)及びせりに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また使用後14日間は入水しないこと。
- つまみ菜、間引き菜には使用しないこと。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理すること。洗浄水は散布液調製に用いるなど、ほ場等で使用すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などないように注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。